



神々の世の伝説をひもとく、伊佐須美神社

「古事記」には、北陸道筋を平定した大彦命(オオヒコノミコト)と、東海道筋を平定した建沼河別命(タケヌカカワケノミコト)がこの地で出会ったことから、地名を相津(会津)としたとされています。父子は再会を喜び、会津開拓の祖神として伊弉諾尊(イザナギノミコト)・伊弉冉尊(イザナミノミコト)を新潟県境の御神楽山(天津嶽)に祀りました。これが伊佐須美神社の起源とされています。その後、明神岳を経て、現在の地に遷座して約1500年。会津総鎮守として人々の深い崇敬を集めるとともに、多くの宝物を蔵し、古式ゆかしい神事を今に伝えています。

(お問い合わせ先／伊佐須美神社 TEL 0242(54)5050)



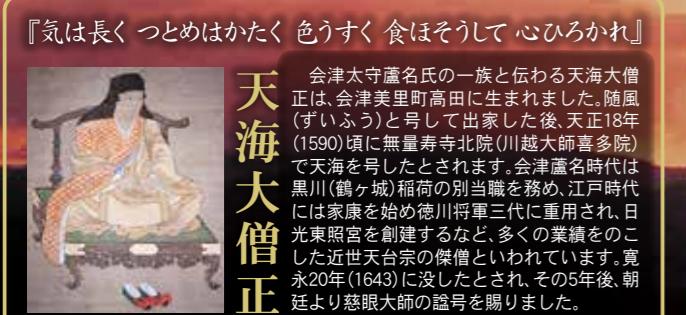
国指定重要文化財 朱漆金銅装神輿

朱漆木部に金銅板を貼付けてあり、鳥居階段の上の板扉の模様は会津城主蘆名氏の往古御紋。戦国時代に奉納したものです。蘆名氏は相模国の三浦氏を祖に持つ初代の会津城主で、鎌倉時代を迎えて会津に武士の世をもたらしました。(伊佐須美神社所蔵)



国宝 一字蓮台法華經

平安時代につくられた一字蓮台法華經は、福島県内に3つしかない国宝の1つで、書き終えるまで280年を要したといわれています。経文6万9384字の一字一字を手書きして、淡彩のハスの台座に乗せるように写経されています。全長9mほどの貴重な斐紙に銀墨を引いた一行17字詰めの体裁をとっています。ハスの台座は岩絵具(緑青、群青、朱、黄土、金、銀墨)で色鮮やかに彩色され、経文字は優雅な和様の細楷で丁寧に墨書きされている装飾経です。(道樹山龍興寺所蔵)



県指定重要文化財 平安の世から 続く古刹 左下り觀音

会津美里町大門集落の西側、参道を約800m程登った山上にあり、間口奥行き共に五間三層で岩山に懸けるようにして建てられていることから「懸造り」と呼ばれており、京都の清水寺を彷彿させる三層閣です。縁起によると天長7年(830)の頃、磐梯山慧日寺の徳一大師が建立し、その後の延文3年(1358)には会津蘆名家の重臣富田氏が修復を加えています。本尊の石仏は觀音菩薩で秘仏になってしまっており、古書には延長年間(923～929)の頃から「無頭觀音(くびなしかんのん)」と呼ばれていたと記されております。その謂(いわ)れば、越後(新潟県)の者が罪から逃れるため、この地に来て山に身を潜め、觀音の力を念じていたそうですが、やがて追手に捕まり岩上で首を切り落とされてしましました。追手はその首を持ち帰り主人に差し出したところ、首は觀音の石頭(いしづび)であったそうです。その首の無くなった觀音像が秘仏となり今は内陣の岩室に納められています。この三層閣から見下ろす景色は絶景で「海のこと深き麓の霞みかな」と中世の連歌にも詠われております。会津三十三観音21番札所。

会津美里文化と歴史を歩く

「古事記に綴られた東北地方唯一の物語」

おおひこのみこと

大毘古命は、先の命のまにまに高志の国に罷り行でましき。

その麓に会津美里の里はあり、宮川のほとりに高天ヶ原があります。

古事記の四道將軍伝説ゆかりの神々の道、博士山と明神ヶ岳の峰々。

その麓に会津美里の里はあり、宮川のほとりに高天ヶ原があります。

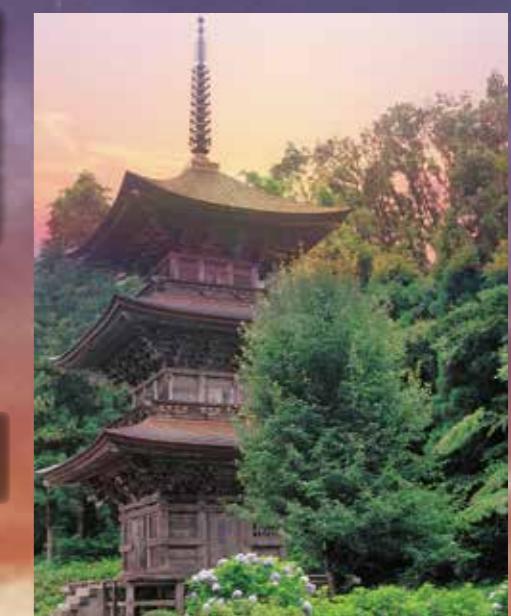
ここ「みさと」は、会津発祥の地です。

国指定重要文化財 銅造十一面觀音像

御本尊は十一面世觀音菩薩、脇侍は地蔵菩薩、不動明王です。一般的に觀音様を本尊としたときは不動明王と毘沙門天という配置となります。中田觀音においては左に不動明王、右に地蔵菩薩という全国的に珍しい配置となっています。鎌倉時代の铸造として、国重要文化財に指定されています。



国指定重要文化財 雷電山 法用寺厨子



国指定史跡 日本三大山城・向羽黒山城跡

『兵どもが夢の跡…』

巡り来てよもの千里を眺むれば
これを会津の中田なるらん



郷土の医聖・野口英世の母シカが願かけ参りをした 普門山 弘安寺(中田觀音)

鎌倉中期に江川俊俊という長者が一人娘・常姫の突然の死を悼み、その菩提を弔うために本尊を作ったといわれています。觀音堂は、弘安2年(1279)に建立されたので弘安寺と称し、本尊は高さ187cmの十一面觀音で、日ぎり、縁結びのご利益や他所の土に化せずとも伝えられる「土守り(砂守り)」を求める参拝者が絶えません。山門近くの弁天堂の厨子は、かつて本尊の十一面觀音を祀っていました。

また觀音堂内には、「だきつき柱」があり、信心の方が抱きつくと何事も心願がかなえられるといわれています。とくに死の床についたとき、長わざらいをしないで往生できることを祈願する。会津の口口リ觀音のひとつといわれています。息子野口英世の火傷の治療と立身出世を祈願し母シカが月まいりしたことでも知られる会津三十三觀音の30番札所です。

(お問い合わせ先／中田觀音 TEL 0242(78)2131)



『兵どもが夢の跡…』

会津支配400年を誇る蘆名氏。その中興の祖盛氏公が8年もの歳月をかけて築城した日本最大級の山城です。立地・堅固さなどの重要性から、伊達政宗や蒲生氏郷が要衝として改修し、上杉景勝・直江兼続主従が徳川家康の会津攻めに備えて最後の砦としました。一曲輪の麓まで大型バスが通行可能なほどの大さです。観光ガイドによる解説も実施しています。